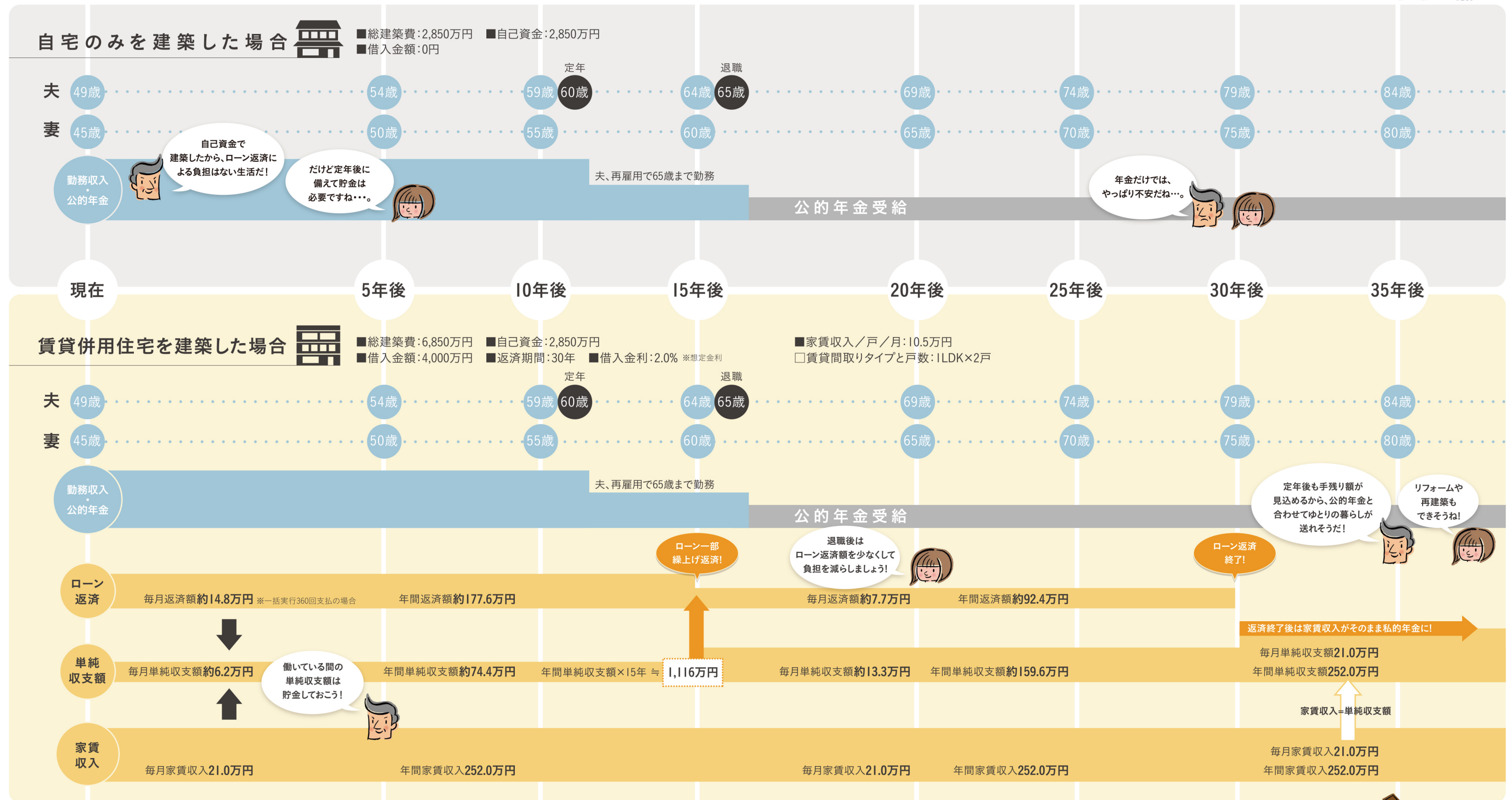
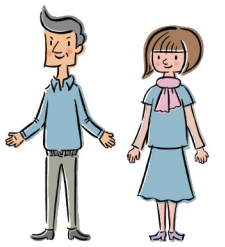


「賃貸併用」なら、安定した家賃収入が退職後も継続。末永くゆとりのある暮らしが続きます。

賃貸併用を選択すれば、ローンの負担額は増えますが家賃収入を返済に充当できます。
また、定年後は公的年金に加えて家賃収入が得られ、暮らしがより豊かになります。
まずは、収支・事業計画を試算することから始めてみませんか。

※下記ローン返済・単純収支額・家賃収入については、設定条件に基づいて単純化して、シミュレーションした目安であり、数値を保証するものではありません。



賃貸併用住宅を建てると、ローンも大きくなりますよね。そもそもそんな大きな借入ができるのですか？

A 賃貸併用住宅のローンは、借入する方の年齢、後継者の有無、また事業計画の内容によって審査されます。家賃収入を返済にあてることができるため、自宅のみを建てる場合よりも大きな借入が可能です。また、要件を満たせば定年後であっても、長期ローン（最長35年）を組むことも可能です。



多額のローンを返済していくことができるのでしょうか？

A 借入額が大きくても、家賃収入が得られる分、単にローン負担が大きくなるわけではありません。重要なのは家賃収入なども考慮した収支、事業計画になります。（また相続税算出の際は、ローン残債分は総資産額から控除されるので、正味財産額を軽減することができます。）

